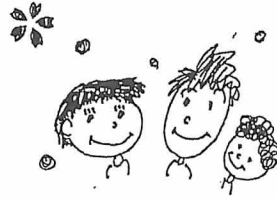


よりそう

Side by Side



第32号

編集責任：筒井

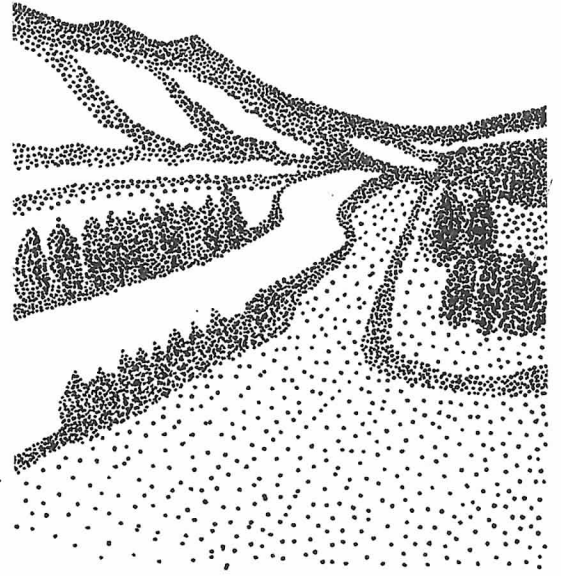
柳田富美子さんのお話

先日『遠野物語』の著者である柳田國男の長男の嫁に当たる富美子さんが、私達ボランティアを自宅に招いて下さった。彼女はオニ次世界大戦の敗戦後の状況と今回の大震災の被害を比べて語りました。

『オニ次世界大戦の時も大変でしたが、日本は立ち直りました。今回は沢山の援助があり、ボランティアにもこんなに沢山来て頂いて、環境は少しずつととのってきています。

戦後は日本中の人々が飢えていて、赤ん坊のミルクを探するのに大変苦労でした。私は焼け野原を直接見てはいないので、今回は途々と続く瓦礫の山を見てショックを受けました。これから日本の経済は増々厳しくなるでしょう』と語る。富美子さんは、これからの日本の国を造る若者にこんなエールを送ってくれた。『何ごとも、自分の目で見て、自分の目で聴き、よく考え、自分の言葉で発言できるような人間になって下さい』

私達は今一度、何の為にボランティアに来ているのか、自身自身に問いかけてみるべきではないだろうか。 記者：星野真人・高山結衣



遠野市
猿ヶ石川の美しい風景
(北海道江別市石ツ公浩)

煙草は安心、安定をくれる。時には存在としての美しささえもくれる。喫煙者の私も、いつ、どんな時でも吸いたくなる気持ちはよく分かる。

だが、ここで聞いた話の中に、現地での作業の合間に「空き地になった場所」で煙草を吸っている人がいたというのを聞いた。本来ならば「グループをまとめるべき」どころか、吸っていたというから「驚き」だ。

現場で煙草を吸う方々に聞きたい。もし、あなたが煙草を吸っていた場所が、「本来誰かが生活を営んでいたところ」なら、そこで暮らしていた方々はとう鬼うか。もし、あなたが吸い殻を捨てた場所が「本来何かがあった場所」なら、同じようなことをするのか。今一度、喫煙者としての、いや、人としてのモラルについて改めて考えてもらいたい。 記者：ペコ

ちょっと話して升たい会
毎晩やります てきとうに話して
人同様のつながりを広げる事を
目的に話仲間をしています。
一期一会の出会ひでも
記者：スー

お知らせ

- ★活動は当日の朝7:00からホワイトホールドに!!
- ★シャワーは時間厳守で、お湯を節約しましょう。
- ★体育館宿泊者は通路の確保をお願いします。

★6/4(土)ボランティアミーティングはPM5:30~@体育館
6/3(金)の宿泊:142人、活動:225人

6/3(土)天気：晴後曇

気温：14.5-22℃

降水確率：0.5%

編集担当者へつ。筒井